

令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人 あおば学園
認定こども園 あおば幼稚園

- 1、本園の教育目標
 - ・自ら見る・聴く ・自ら考える・感じる ・自ら行動する

- 2、本年度重点的に取り組む目標・計画
 - ◎食事に関する興味、関心をもてる幼児を育てる
 - ◎人の話に耳を傾け、相手の思いを受け入れられる幼児を育てる環境づくり

- 3、評価項目の達成及び取り組み状況

重点 目標	評価 項目	評価指標及び評価結果					総括 評価	コメント、評価結果に関する 説明・意見等			
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標			成果 評価		
食事に関する興味、関心をもてる幼児を育てる	食事に関する意識を持った 幼児を育てる	4	栽培や食事を通し、命をいただく大切さに気付けるような幼児を育てる	3.3	4	野菜などを育てる中で親しみを感じ、苦手な食材にも興味、関心を持つ幼児の姿が見られた	3.5	B	・年長児が行った野菜の栽培を通して、これまで苦手だった食材にも興味、関心を持つ園児が増えた。 ・今回、年長組のみでの取り組みだった為、次年度は全学年で、年齢に応じた取り組みを考え、より興味、関心を持てるよう計画をしていきたい。		
		3	絵本や掲示物を用いて“もったいない”という思いが持てるような環境を構成する		3	自分で意識して箸などを正しく持とうとしたり、食事中の行儀に気を付ける様子が見られるようになった					
		2	食事のマナーが身に付くようにな声を掛け、援助を行う		2	食に大切さに気付き、進んで食べようとする気持ちを持つ幼児が増えた					
		1	食事が楽しいと思えるように教師自らが言葉かけを行う		1	友だちと一緒に楽しく食べられるという事に気付き喜んで食事をするようになった					
	成長に必要な食に関する 意識が持てるようにする	1	「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶を心を込めて言う雰囲気を作る	3.4	1	命をいただくという意味が理解できる幼児がでてきた	3.0			B	・教材を通して、自ら食べているものや「命をいただく」ということへの関心は持てるようになってきている。 ・実際に食材そのものに触れる体験を増やすことで、更に興味、関心をもてるように計画していく
		1	様々な食材を食べることで、自らの成長に気付くような言葉かけをする		1	自分たちの体が大きくなっている事に気付き、好き嫌いなく食べようとする幼児が増えた					
		1	自ら食べているものに興味関心を持てるような絵本や栄養素表を掲示する環境を整える		1	自分たちの食べているものに関心を持ち始めた					
		1	楽しい雰囲気の中で食事をする		1	話したり、周りを見たりしながらも食が進むようになった					

重点 目標	評価 項目	評価指標及び評価結果					総括 評価	コメント、評価結果に関する 説明・意見等	
		基準	取組指標	取組 結果	基準	成果指標			成果 評価
人の話に耳を傾け、相手の思いを受け入れられる幼児を育てる環境作り	仏前礼拝での園長の話や、人の話に耳を傾ける態度を身に付けられる環境作り	4	相手の話を自分の話のように受け止め聴く姿を認める	3.0	4	教師や友だちの話を進んで聞こうとする様子が見られるようになった	3.0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・仏前礼拝を通して、幼児に人の話に耳を傾けるという習慣が身についたと実感できた。 ・園児が人の話に耳を傾けるという姿について共有することで、幼児の姿のイメージが職員間で同じであるということの再確認に努めていく。
		3	話を聞く態度が身に付き、ふさわしくない態度を幼児同士で注意し合える環境を作る		3	幼児同士でおしゃべりをやめるように言ったり、姿勢を注意したりする様子が見られるようになった			
		2	教師の話が始まると、静かに聞くように促す		2	教師の話が始まるとおしゃべりをやめ、話を聞こうとする幼児の姿が見られるようになった			
		1	仏前礼拝で話を聞く機会を設ける		1	話を聞くことが出来ない幼児もいる			
	一人一人の表現を受け止める、幼児	4	幼児たちの発した言葉を教師が受け止め、仏前礼拝での話を自分たちなりに理解し、園生活に繋げていけるように援助をする	3.0	4	トラブルが起こった時に自分たちで考えられるようになってきた。人に対する思いやりの気持ちを持つようになってきた	3.0	B	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉使いや相手の気持ちを考えることの大切さを話す中で、好ましくないと思える発言を注意し合う幼児の姿が増えてきた。 ・幼児たちが発言した言葉を「保育者がきちんと受け止めてあげる」ということは、どうかかわり方なのかを確認しあう必要性を感じた。
		3	仏前礼拝で聞いた話の内容と自分の経験を繋げて考えたり、創造豊かにイメージできるような言葉かけを心がける		3	仏典童話の話を幼児なりに理解し、自分や友だちの事として置き換えられることが出来る幼児が現れ始めた			
		2	仏前礼拝の内容を振り返る時間を設ける		2	自分の思いを聞いてもらいたがるようになり、教師や友だちに自分の思いを言葉で伝えられるようになってきた			
		1	仏前礼拝で話を聞く機会を設ける		1	話の途中でも、自分のおしゃべりをしたり、手遊びをしたりして、落ち着かない幼児がいる			
	思いを言葉で伝え合う喜びに関して、一人一人の幼児を理解する	4	幼児の生活に添いながら、その言葉の意味や使い方をその都度具体的に理解できるように伝えていく	2.5	4	相手の気持ちを考え、言っていること、悪いことなど、言葉の表現に気を付けながら、自分が思っている事を伝え合えるようになった	2.8	C	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで自分の思いを表現できなかった幼児が、相手から受け入れてもらうことを実感したことで、言葉で表現できるようになった ・職員間での情報の共有の仕方に課題を感じた。次年度は次につながるための話し合いを充実させる必要がある。
		3	幼児の表情に着目し、言葉にならない幼児の思いに着目する		3	自分が思っている事を、自分から言おうとするようになってきた			
		2	記録から幼児の思いを整理し分析する		2	教師が尋ねると、自分の思いを伝えようとするようになった			
		1	教師間で、幼児たちの情報を共有する		1	言いたいことが伝わらず、癇癪を起こして泣いたり、黙ってしまう事があった			

4、今後の取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	今まで2年間取り組んできたことを活かす 保育を行う	いのちの大切さや話を聞くことの必要性が身につくように、幼児の興味、関心を大切にして保育計画を立てる
2	職員間での子どもの姿の受け止め方の違いに よる認識のずれを無くすような情報共有に 努める	同僚性を意識して「言葉」で伝え合い、保育を行う上での方向性を共有する

5、学校関係者の評価

今年度は「運動会」「七夕会」「生活発表会」等に参加させていただきました。園児一人一人が自信をもって取り組む姿勢や失敗してもあきらめることなく最後までやり抜く姿がとても見られました。教職員も園児の背中を押す声かけが多く、子どもたちの自己肯定感の高まりにも繋がっていると思いました。運営面でも時間配分等、計画的に見通しを持った運営ができていると感じられました。

小学校との連携においては、初めて小学校に来て、小学生と一緒に活動する中で、子どもたちの様子を見てみると、不安よりも楽しみな気持ちの方が高いと感じられ、交流の意味を先生方がしっかりと捉え、子どもたちに伝えているだろうと推察できました。課題としては、もう少し、年度初め等に計画ができればより意義のある取り組みができるのではないかと思います。

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

委員会実施日

令和6年3月1日